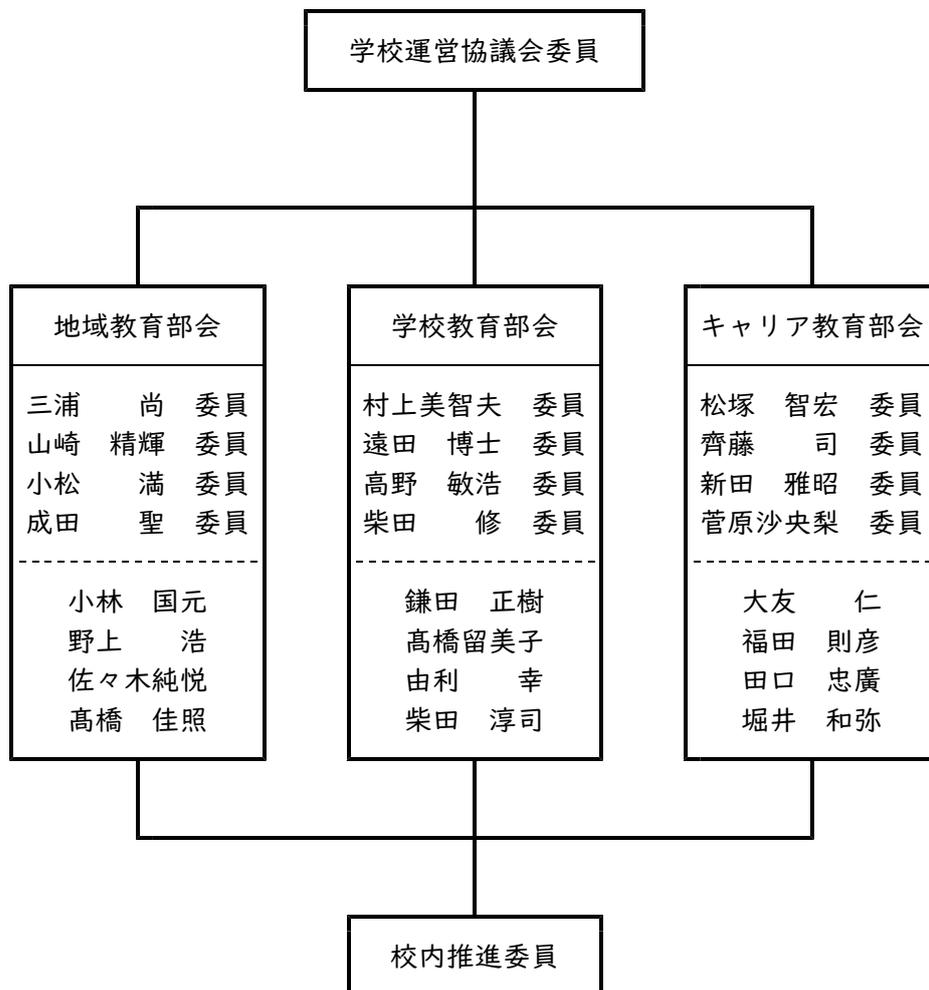


令和7年度 コミュニティ・スクール 第2回学校運営協議会 議事録

日 時 令和7年11月12日(水) 15時10分～16時50分

- 次 第 1 全体会Ⅰ 15:10～15:25 会場:大会議室(3F)
- (1) 校長挨拶
 - (2) 委員長挨拶
 - (3) 資料の説明
 - (4) 諸連絡
- 2 分科会 15:35～16:20 会場:各室
- (1) 分科会別協議
 - ① 協議「学校がやるべきこと、やらなくてもよいこと」
 - ② 部会ごとの話題、気になることなど
 - ③ その他
- 3 全体会Ⅱ 16:30～16:50 会場:大会議室(3F)
- (1) 各部会から報告
 - (2) 委員長挨拶

組 織 図



全体会 I 記録

会 場 大会議室

参加者 学校運営協議会委員 6名

三浦 尚、山崎 精輝、齊藤 司、成田 聖、新田 雅昭、高野 敏浩、
柴田 修（校長）

※欠席者 松塚 智宏、村上美智夫、小松 満、遠田 博士、菅原沙央梨

敬称略

校内委員 12名

堀井 和弥、福田 則彦、高橋 佳照、鎌田 正樹、由利 幸、田口 忠廣、
柴田 淳司、大友 仁、高橋留美子、小林 国元、野上 浩、佐々木純悦

1 校長挨拶（柴田 修 校長）

本日は、御多用中にもかかわらず、第2回学校運営協議会に御出席いただきましてありがとうございます。また、日頃より、本校の教育活動に対しまして、御理解・御協力を賜り、感謝申し上げます。

先月の職員会議で、本日の第2回の会議に向けて、先生方に伝えたことからご紹介します。

学校運営協議会を設置しているコミュニティ・スクールは、学校としてやらなければいけないことを伝え、それが本当に必要なのか、「やらなければいけないこと」、「やらなくてもいいことかもしれないこと」を学校だけで考えず、一緒に熟議することで、働き方、働く中身を一緒に点検してみると「学校の当たり前」が変えられるかもしれません。コミュニティ・スクールは学校の良き応援団に囲まれた学校だと思えます。と、以上のことを先生方に話しました。

コミュニティ・スクールとは、学校運営協議委員が一定の権限と責任をもって学校運営に参加することで、教育ビジョンを共有し、目標の実現に向けて協働する仕組みのある学校です。生徒を真ん中に置いたとき、学校、学校運営協議委員、地域住民、保護者で生徒の見え方は違うと思えます。その違いを理解した上で、それぞれのよさを生かして一つになり、地域の多様な大人が、自分の子どもだけでなく、すべての子どもの成長に関わる「地域で育てる学校」が実現すれば、それが理想だと思えます。

本日は、皆様に忌憚のない御意見をくださいますよう、お願いいたします。

2 委員長挨拶（三浦 尚 委員長）

日本全国クマが出没している。私の家の庭にクマのものと思われる足跡があった。他人事ではなくなっている。現在、自衛隊が派遣されているが、もっと早く依頼しても良かったのではないかと考えている。

本日は、学校運営の課題について考えてほしい。よろしく申し上げます。

3 資料の説明（堀井 和弥 教頭）

お手元の資料の5ページから8ページは、今年度の各部活動、同好会、各科の主な大会成績になります。

6ページをご覧ください。「全県総体陸上競技」までは6月の第1回学校運営協議会資料にも載せておりましたので、それ以降のものについて少しご紹介いたします。

全県総体ではソフトテニス男子個人（ダブルス）で3位、バドミントン男子ダブルスと男子シングルスで1位となり、インターハイに出場しました。

県南総体駅伝では4連覇を果たしました。

秋田県高校生ものづくりコンテストでは、測量部門に参加した土木・建築科の3年生が2位に入賞しました。

一番下にWRO Japan 2025県大会とあります。WROとはWorld Robot Olympiadの略で、レゴブロックで組み立てたロボットをプログラミングして、ロボットに規定の作業をさせるという競技です。県大会ではエキスパート部門、ミドル部門ともに1位となり、全国大会に出場しました。

7ページをご覧ください。

秋田県吹奏楽コンクールでは高校小編成の部で2年連続金賞を受賞しました。

インターハイではソフトテニス、バドミントンともに惜しくも初戦で敗れました。

土木系学生によるコンクリートカヌー大会では、2年連続で総合優勝を果たし、先週土曜日の秋田魁新報でも大きく報じられました。

秋田県工業クラブロボット競技大会では1位とわずかな差の2位となり、全国大会に出場しました。昨年まで4チームだった出場枠が今年から2チームとなり、狭き門でしたが見事に突破しました。

県南新人ソフトテニスでは団体・個人ともに1位となり、個人は全県新人でも1位となりました。

秋田県高校3.5MHz ARDF大会では、個人で1位となりました。

全国高校サッカー選手権大会秋田県大会では、3回戦で惜しくも西目高校に敗れました。

全県総体駅伝では2位となり、東北大会に出場しました。

8ページをご覧ください。

県南新人バドミントンでは男子学校対抗、男子ダブルス、男子シングルスともに1位となりました。

全国高等学校ロボット競技大会は、今年は福島県郡山市で開かれ、全国から72チームが参加しました。本校のものづくり同好会は予選を11位で通過し、準々決勝で惜しくも13位となり準決勝に進めませんでした。大会前日の公式練習では5位ただただに残念でしたが、出場した生徒3人は頑張っておりしました。

マイコンカーラリー北東北地区大会ではBASIC部門で1位と2位になり、全国大会に出場します。

全日本製造業コマ大戦とあります。コマ大戦とは、学生生徒と民間企業が共同製作したコマをベーゴマのようにして争う競技会で、秋田場所には26チームが参加しました。本校からは機械科の課題研究のグループが三共光学さんの指導を受けながら製作したコマで参加し、予選リーグで県立大の2チーム、決勝トーナメントでは増田高校、由利工業高校、決勝で県立大のチームを破り、見事1位となりました。

マーチングバンド・バトントワーリング東北大会では吹奏楽部が銀賞を獲得しました。

生徒昇降口の上に2枚の看板が掲げられています。右側の看板には県南総体の各部の活躍が示されています。10月初めに取り付けられた左側の看板には、野球部の工業高校野球交流会の10年ぶりの優勝、吹奏楽部とものづくり同好会、それぞれ生徒の活躍を掲示してございますので、お帰りの際にご覧いただければ幸いです。

9ページは、本校の現時点での進路内定状況についてまとめたものになります。

今年度の県外求人数が大きく増えています。昨年度までは学校に届けられた求人票をもとにカウントしていましたが、今年度より「ハンディ」という高校生向け求人票デジタル管理システムを導入し、求人のお数え方が変わったためにこのような数値になりました。

表の右上の合計欄にありますように、3年生の在籍生徒数は112名です。これに対し、内定者の数は就職と進学を合わせて86名になっています。ここでの内定者は「進路先が決定した生徒」と解釈してください。進学希望で、専門学校に合格しているけれども、第一希望の大学をこれから受験する予定の生徒ですとか、公務員希望で第一希望先の発表を待っている生徒などは、決定していないということで、内定者に含まれていません。

未定者26名の内訳は、県内の民間企業への就職を希望している生徒2名、公務員試験の合格発表を待っている生徒9名、進学希望の生徒14名、休学中の生徒1名となっています。仮に、全員が希望どおりの進路先に向かうとすると、就職者は82名、進学者は29名、比率で就職74%、進学26%となります。資料にあるとおり、昨年が就職76%、進学24%ですから、昨年とほぼ同じ値です。就職者82名のうち、県内は42名、県外は40名で、比率で県内51%、県外49%となります。昨年のデータを見たところ、県内54%、県外46%でしたので、こちらも昨年とほぼ同じ値です。

今年度の就職先は表の下のおりとなります。

分科会協議題

- 協議題 ① 「学校がやるべきこと、やらなくてもよいこと」
② 部会ごとの話題、気になることなど
③ その他

分科会記録（地域教育部会）全体会Ⅱで報告

会 場 大会議室

参加者

委員（敬称略）：三浦 尚（委員長：同窓会長 株式会社丸茂組プロジェクトサポーター）
山崎 精輝（元PTA会長）
成田 聖（大仙市総務部総合防災課 防災専門官）

校内：小林 国元（機械科主任）、野上 浩（電気科主任）、佐々木純悦（土木・建築科主任）、
高橋 佳照（総務部防災担当）

（進行：小林 国元、記録・報告・まとめ：高橋 佳照）

小林

- ・今回のコミュニティ・スクールまでの本校の主な行事の確認をします。
7月インターンシップ、親子ものづくり体験、地域清掃
10月秋の総りフェア、地元企業見学会、避難所開設説明会、学校祭の大工花火
11月大曲商工会議所主催工業製品展示会、仙北中学校体験授業
12月東大曲小学校体験授業
その他部活動単位で地域清掃、除雪ボランティアを行っている。

佐々木

- ・大工は行事が多すぎてスクラップ&ビルドではなくビルド&ビルドで大変忙しく感じた。仙北中の体験授業はお互いに行ったり来たりで2回実施している。今年は内容を変えて新しい試みをした。今回来てくれた土建科体験の14名の生徒においては、現時点での大工希望者は少なかった。

野上

- ・仙北中だけではなく広げてみてはどうか？さらに対象が中学2年生では早いような気がする。夏休み親子ものづくり体験はキットのようなものを使うので楽しくものづくりが出来、触りとしては良いと思う。ただ生徒の積極性がないと難しい。

小林

- ・今年は3DCADや3Dプリンターを扱ったがアンケート結果は好評であった。THE機械といった内容ではなかったが、今流行りな内容な分、興味を引くことができた。入学生確保につながれば。

山崎委員

- ・他の中学校にも興味がある子が多数いると思うので、そういう子にターゲットを絞ってもいいのではないかと。時期も中学校の10月の秋休みに合わせるとか。

野上

- ・コマ大戦などは秋田県から積極的にやるように指導されている。生徒の意見から企業がコマを作る。年々盛んになってきている。継続した方がいいものとなくした方がいいものの精査は必要である。

成田委員

- ・話を聞いていて先生方の多忙さを感じる。長い付き合いもありなくすのは難しいが精査は必要である。中学校側も行事の決定は校長ということであれば、生徒が多数入学している中学校の校長との校長同士情報共有や連携は必要だと感じる。

三浦委員

・学校周辺の地域清掃を行っているようだが、それはPRで成果ではない。何のためにやるかが大切である。クマの被害を考えると野外の活動は危険。私自身何十年と続けてきたサケ祭りを中止にした。学校側はやりたい雰囲気であったが、学校としてクマ対策を立てているのか、いささか疑問である。生徒の命を守るためには必要な知識である。事故が起きてからでは遅い。

山崎委員

・地域清掃が一番道路が汚れる雪どけに合わせて1回にするとか。クマ対策は学校側でも大通りを帰る、必ず複数名で帰る、防御態勢の指導などいざという時にとっさに命を守る行動を取れるような実践的な指導をしてほしい。

三浦委員

・工業高校なので独自のクマ対策グッズを製作してはどうか？カスタネットのようなもので、たたくとすごい音がなるものとか。爆竹に自動で着火するものであるとか。

成田委員

・学校側としてはクマを捕獲したりなどの積極的行動を取ることはできない。クマを遠ざける行動や予防的な消極的行動しか取ることができない

分科会記録（学校教育部会）全体会Ⅱで報告

会 場 図書室

参加者

委員（敬称略）：高野 敏浩（PTA会長）

柴田 修（本校校長）

校内：鎌田 正樹（教務主任）、高橋留美子（保健主事）、由利 幸（生徒指導主事）、

柴田 淳司（特別活動部生徒会担当）

（進行：鎌田 正樹、記録・報告・まとめ：柴田 淳司）

学業について

鎌田

・魅力ある授業、ICTの活用能力の向上、将来的に身のある教育活動、学習指導要領に則った学習、基礎基本の習得、ICTを活用した学習など上記が、学校教育にて行われる。地域にゆだねてもよい活動があるか？どういったものか？。教員の専門性を、時代にあった高度な技術を身に付けるため、社会人活用。県立大学の教授を呼ぶこともあった。技術専門校にご協力いただいた駐車場のライン引き。仙北中学校と連携した活動。他の中学校とも連携すればよいのでは？。他に外部から人を呼んで、できる学習は？。

高野委員

・どういう授業が、どんなふうに行われているかがわからないから、意見が浮かばない。むしろ、教員側のほうが詳しいのでは？。

校長

・授業参観などはありましたか？。

高野

・小学校ではあった。高校でも見たが、人数は少なかった。PTAも少ないので興味がない。PTAも女性ばかりで男性が少なかった。保護者の出席率が足りない。むしろ保護者から授業に対する意見はありますか？

鎌田

・来年の生徒からPCは自費購入。使ってない場合、もしかしたらそれ関連の問い合わせはあるかも。

高野委員

・学校活動への保護者からの問い合わせや意見については、以前、修学旅行に関して要望があったことを聞いた。修学旅行に関する学年PTAでも活発な意見交換があった。行程に関する意見であった。学業については、勉強する人はするだろうし、しない人はしないだろうし。むしろ教員のほうが現場の雰囲気を知っているのでは。PTAと授業参観とをぶつけるのは悪くない。壮行会を見に来て帰る保護者も多い。1年生最初のPTAは来るが後は来なくなる。3年間で個人面談を行う人は年々減っていく。クラス面談でも数人。親が来ないのは事実。授業とかだと、生徒が来るなどか言うかも。そういう取り組みをしない訳にはいかない。人がこないからやらないとは言えない。

校長

・壮行会をPTAと一緒にやった。野球部の壮行会に保護者が来た。来年度は来てもいいですよとお伝えしようと思う。

高野委員

・地域の人が学校と触れる機会はあってもいいと思う。

校長

・体育祭とかも見て貰えればいいのでは。

高野委員

・中には体育祭を見たいという保護者もいるのでは。

校長

・体育祭は見に来てもらってもいいのでは。昔は桜を見に来る会というのもあった。昔は桜並木がすごかった。地域の人を入れてもよかった。地域の人も花見しにきた。学校行事も含めて、そういった機会に地域の方に見ていただければと思う。

生徒指導面について

鎌田

・最近ニュースで「個を重んじる」という風潮。規則で縛るというものではなくなっている、というのはどうなのか。生徒指導としても。

由利

・ルールは設けないといけない。最低限社会に出るのに必要なものは必要だとは思うけど。

高野委員

・大学、専門学校とは違う。ある程度のルールはないといけない。線引にこだわって生徒と喧嘩してもと思う。

鎌田

・頭髪、ツーブロックは最近言わなくなってきている。会社も最近は言わなくなってきている。

高野委員

・最近、会社でも「髪の色は自由です」という張り紙がしてあるところもある。

鎌田

・最低限のなにかはないといけないと思う。そのようなことより自分が目指すものに神経を集中させないといけないと思う。

由利

・今の人たちは、自分でなにかを決めてやろうとする、自分で進んでなにかをするというタイプの間が減ってきている気がする。整容など、保護者もそれを気にしない時代になってきているのでは？

高野委員

・昔は、とりあえず学校の先生の言う事聞いているという時代があったが、今は友達親子が多い。なにかあればすぐクレームという親が親になっている時代だと。

由利

・親の方でも制服を着るときくらいは注意してほしい。夏休み、金髪になっているとかについて。

高野委員

・警察に厄介にならなければ、人様に迷惑をかけなければ、と思うところもある。

自転車に関する道路交通法について

高野委員

・4月1日から、ながらスマホは青切符12,000円の罰金となる。どうやって生徒に指導すればいいのか、という話題になった。ただ、教員や親が話しても説得力がないのではないか。警察から来てもらって話してもらえばいい。警察が話せば生徒も聞く。同様に、薬の危険性についても話してもらえばいい。裏話もしてもらってかなりためになったという。通学時に青切符切られた場合、連絡がくるのか？。

由利

・市内ではそういう件があった場合、連絡は来る。本校はまだ来てないが。

高野委員

・学校側としては、捕まった場合、通学中のものなので生徒指導案件になるのか。話した人と黙っていた人との違いはあるのか。といった話題がでた。ヘルメットかぶれとしたら自転車使わなくなるのでは。本校では3年生でヘルメット着用は2、3名いる。

由利

・中学校のヘルメット持っている人はいるが、被っている生徒はほとんどいない。

高野委員

・高校生なのだから、ヘルメットは指定でもなく自由になる。

由利

・増田高校は、警察に来てもらってヘルメットの紹介、呼びかけなどを行ったら着用率が増えた。本校は4月に交通安全教室を行ったけど、増えなかった。制度として改正されるので、もっと呼びかけていかなければならない。

鎌田

・やらねばならないとなったら、原付きの半キャップみたいなものが出てくるのでは。

校長

・今ヘルメットはいくらくらい？高い？値段もピンキリ。

高野委員

・大曲中だけヘルメット被ってなかった。最近被るようになった。16歳以上になればとなるので、大人も必要になる。実際に学校ではどうするのか。

由利

・電動スクーターの話題にもなる。

高野委員

・自分が乗ろうとしないので、法律もわからない。本校は、原付き通学は？

由利

・認めていない。

高野委員

・バイクで捕まる生徒はいるのか

由利

・いない。昔はバイク通学の生徒もいた。内規にあった。今はそういった内規はない。死亡事故などもあったから禁止になったのでは。

高野委員

・工業は、就職のためにバイクを取らせていた。事故が多くなってきて取りやめた。

由利

・事故が多くなってきてだと思う。最近は送り迎えも増えてきたので、なくなったのだと思う。

高野委員

・今の若い子はバイク、車にそんなに興味がないのではないかと思う。

鎌田

・機械科には、車好きの生徒が多い。

高野委員

・今の子は小さいころからスマホ、ゲームでえらくお金がかかる。昔は100円で何買おうかの時代。今の子供は、お金をかける方法が決められている。課金とかスマホとか。他のものにお金を使わない

ようになっているのでは。

鎌田

- ・部活動や地域連携などの問題もある。

分科会記録（キャリア教育部会）全体会Ⅱで報告

会 場 土木コース製図室

参加者

委員（敬称略）：齊藤 司（秋田県立大曲技術専門校 校長）

新田 雅昭（大仙市経済産業部商工業・若者チャレンジ振興課 課長）

校内：堀井 和弥（本校教頭）、大友 仁（進路指導主事）、福田 則彦（総務主任）、

田口 忠廣（特別活動主任）、

（進行：大友 仁、記録・報告・まとめ：田口 忠廣）

大友

- ・全体会Ⅰで部活動の成績報告があったが、生徒数が減っており、県南新人大会や全県新人大会の運営が大変になってきている。また、部顧問の休日練習指導も大変になってきている。そろそろ、生徒数の減少に対して各学校ごとでは無く、部活動の在り方を考えていくべきではないか。

新田委員

- ・学校部活動については大きな問題であるが、なかなか難しい問題であると考える。

大友

- ・中学校では、同じ競技でも、学校部活動に入り活動する生徒と、地元のクラブチームに入って活動する生徒に分かれる場合がある。

福田

- ・学校によっては、人数の問題で、団体を組めない学校が出てきている。
- ・高校野球では、合同チームが大会に参加しているが、勝った場合に甲子園等に出場できるものか。（全体会にて高野委員から、出場できないと教えていただく）

大友

- ・大曲工業高校は県外就職がなぜ多いのかとよく聞かれるが、学校として勧めているわけではない。本校の就職支援員は地元の企業も勧めているが、県外の企業は、給料や福利厚生面が良い。また、本校OBが務めている企業や交通の便が良い地域を選ぶようになっている。進路指導部としては、生徒が希望している企業で対応するしか無い。選択肢を増やして考えさせることは可能だと思う。就職希望の生徒は、名のある大きい企業に行きたがる傾向がある（例えばTDKなど）。また、生徒が進路を決める際に、保護者の意見も強く反映されている印象がある。

新田委員

- ・大仙市でも、中学校か高校かまだ決まっていないが、生徒と保護者が参加した企業説明会を実施したいと考えている。

大友

- ・11月11日（火）に本校では、地元の商工会議所等が主催の企業説明会を実施したばかりである。場の提供のみで職員の多忙化解消にもつなげたと考え。また、今後は、1・2年生を対象に保護者を入れた企業説明会を実施したいと考えている。

新田委員

- ・第1回目の学校運営協議会で学校側から提案があった、企業説明会等の移動手段として市からバスを出して頂けないかとの件に関しては、可能になった。台数や日程調整があるので、使用したい場合は、早めに連絡をいただきたい。

教頭

- ・大曲技術専門校では、多忙化解消等で取り組んでいることはあるか。

齋藤委員

- ・専門校では、部活動も実施しておらず、あまりないが、いろいろな所から協力を頂きながら進めている。
- ・学校でやらなくてもよいことが、何かは難しい問題だと考える。時間が限られているので、優先順位を決めて、進めていくことが大切だと考える。

教頭

- ・今までやってしたが、やらなくても良いと思うことは、思い切って辞めることも大切だと考える。

全体会Ⅱ記録

会場 大会議室

1 各部会からの報告

各分科会での話し合いの内容を記録者が報告（要点）

2 委員長挨拶（三浦 尚 委員長）

生徒（学校）は、知識を身に付けることが大切で、次に地域との関係につながっていく。今年は、これに絞って取り組んでいこうという考え方もあるのではないか。何のための高校生活なのかを考えてほしい。クマ被害の状況については、本当に身近な問題である。どのような指導をするのか本気で考えてほしい。